



## 過去の歴史を学び、後世へ伝える

高野平和の集い並びに追悼碑前祭・9/2

No.5

第18回目となる「高野平和の集い並びに追悼碑前祭」が高暮ダム朝鮮人追悼碑前で開催されました。この集いは高暮自治会の主催により、高暮ダム建設に伴う過酷な工事で犠牲となった朝鮮人の冥福を祈り、平和の尊さについて考えるため毎年開催されています。

当日は高暮地区の住民や広島朝鮮初中高級学校の生徒、県内の高校生など約60人が参加し、献花、高校生有志による民謡「アリラン」合唱のほか、元中学校教諭四車ユキコさんの紙芝居による解説がありました。

高暮自治会の草谷末広さんは「この集いが平和・人権の情報発信となるよう今後も続けていきたい」と話していました。



▲平和宣言をする学生

## 子どもたちが稲刈りにチャレンジ

比和っ子田稲刈り・9/6

No.7

比和町内にある「比和っ子田」で、比和小の5・6年生13人が稲刈りを行いました。この稲刈りは、食育の一環で毎年行われており、児童は機械を使わない田植えや稲刈りを体験した後、自分たちで収穫したもち米を調理して食べます。

5月の田植えから4カ月。子どもたちはこの日をとても楽しみにしていたようで、やる気に満ちていました。作業が進むにつれて、子どもたちはだんだんと鎌の使い方などのコツを掴んでいき、みんなで協力しながら楽しそうに刈り取りをしていました。

稲刈りを終えた児童は、「12月のおこわ作りが今から楽しみ。早く食べたい」と話していました。



▲鎌を使って稲刈りを行った

## 夏休みの思い出

スイーツ・工作・料理教室・7/26・8/7・8/21・8/29

No.4

総領自治振興センターで、総領放課後子供教室スイーツ・工作・料理教室が開催され、同教室の児童が参加しました。

スイーツ教室では、町内在住の手島亜希さんを講師に迎え、「抹茶ラテ」と「きなこ飴」作り挑戦しました。工作教室では、牛乳パックやペットボトルを利用した「フリスビー」と「空気砲」を作り、手作り遊び楽しさを味わいました。料理教室では、包丁の持ち方、野菜の切り方や栄養について学習しました。

夏休み期間中、児童たちはさまざまな体験活動を行い、楽しい夏の思い出となりました。



▲きなこ飴作りでは重さを図りながら蜂蜜をきなこに落としました

## モデル地区として交通安全を推進

交通安全教室・8/28

No.6

西城球技場で、西城地区高齢者交通安全モデル地区活動推進協議会による交通安全教室が開催され、西城地区老人クラブ連合会の会員が受講し、交通事故から身を守る方法を学びました。

この活動は、住民主体で計画的かつ効果的な交通安全活動を推進することで、高齢者の交通事故防止を図ることを目的とするもので、平成30年から約2年間、西城地域がモデル地区に選ばれています。

今回の活動では、講師に庄原警察署交通課長、西城交番長、八軒駐在所長などが招かれ、夜間における反射材の効果検証、パトカーを用いたハイビームとロービームの違いの確認、歩行者の姿が突然見えなくなる蒸発現象などの説明が行われました。



▲夜間に屋外で見え方などの説明が行われた

## 「庄原のいいところ」広めたい!

庄原中学校2年生によるプレゼンテーション・9/21

No.1

庄原中学校の2年生が、修学旅行で訪れる京都市で庄原のPRを行う活動「庄原いいところ広め隊」に取り組んでいます。この取り組みは、生徒たちがふるさと庄原の魅力を再認識し、自らがその魅力を広く発信することを通じて、地域への愛着と誇りを育むことを目的としています。

生徒たちはこれまで、市内のおすすめスポットやイベント、比婆牛など地元のグルメの情報に加え、庄原中学校での学校生活を、写真もふんだんに用いてまとめたパンフレットを作成してきました。このたび、その原案がまとまったことから、観光やまちづくり業務を担当する市職員に対して、パンフレットを使ってのプレゼンテーションを実践しました。説明する生徒の多くは、終始緊張した面持ちでしたが、自ら調べた庄原の魅力や学校の紹介をしっかりと自分の言葉で語り、市職員からのアドバイスを熱心に書き留めていました。

修学旅行での活動では、外国人の方向けに英訳したパンフレットも活用し、京都のまちなかで観光客や道行く方に生徒自身が声をかけて、プレゼンテーションに挑戦する予定です。

生徒は、「パンフレットばかりを見て、相手の目をみて言うことができなかった。本番では相手の目をみてPRしたい」と話しました。



▲修学旅行での活動の予行演習を兼ねてプレゼンテーション



▲生徒たちが作成したパンフレット

## 交通事故防止などを呼びかける

秋の全国交通安全運動 東城大会・9/21

No.3

市役所東城支所の駐車場で、「秋の全国交通安全運動 東城大会」が開催されました。この大会は、東城交通安全協会の主催で、毎年春と秋の交通安全運動期間中に、子どもと高齢者の交通事故防止、飲酒運転の根絶などを呼びかけるために開催されています。

大会では東城保育所年中組の皆さんが元気いっぱいの踊りを披露し、交通安全宣言で来場者に交通安全を呼びかけました。また、自動ブレーキシステムなどを搭載したサポートカーの試乗会も行われ、来場者は自動車の最新の安全機能を実感し、驚いていました。

東城交番の佐々木征一係長は「最近では駐車場内での事故が多い。周りをよく見て安全確認をしてください」と呼びかけました。



▲自動ブレーキ搭載車の試乗会の様子

## 地域の安全・安心を目指して

平成30年7月豪雨災害「検証会議」・8/29

No.2

口和自治振興区を中心に、自治会、消防団、社協、民生委員などが、災害に強い地域を目指して、平成30年7月豪雨災害の「検証会議」を行いました。

会議では、「一人暮らしの方や高齢者世帯など心配な家庭に避難するための支援や声掛けをした」「炊き出しを行った」などの報告があったほか、「消防団が積極的に活動してくれて心強かった」「他人に迷惑をかけたくないという理由から避難をためらう高齢者もいた」「各団体が避難支援に取り組んだが、役割の確認や情報共有ができず苦労した」などの感想や課題などが挙げられました。

今後、これらの意見を集約し、同自治振興区が災害時の対応方法について検討していきます。



▲検証会議の様子



## 庄原市内にある道の駅などが連携

庄原いっぴんまるしえ・9/1

No.8

庄原市道の駅等連絡協議会は、食彩館しょうばらゆめさくらを会場に、「庄原いっぴんまるしえ」を開催しました。

このイベントは、市内にある6つの交流拠点施設（食彩館しょうばらゆめさくら、道の駅遊YOUさろん東城、東城きんさい市、モーモー物産館、道の駅たかの、道の駅リストア・ステーション）がそれぞれの施設のオリジナル商品を提供し、にぎわいの創出と、各店舗の魅力などをPRすることを目的としています。

当日は高野りんごのアップルパイや、地鮎の昆布巻、ローズステーキ、シフォンケーキ、唐辛子など、各施設のオリジナルグルメや銘菓が並び、市内外から約1,500人が来場しました。また、会場となったゆめさくらでは、館内の2店舗（米麦工房、ミルクファーム）がコラボレーションした「シューアイス」の販売を行うなど、イベントを盛り上げました。

庄原市道の駅等連絡協議会では、今後もこうした連携イベントを通じて「グルメのまち庄原」および各店舗の魅力をPRしていきます。



▲屋内の会場の様子



▲屋外の会場の様子

## 民泊による交流で地域を元気に！

民泊シンポジウム&民泊受入家庭交流会・9/8

No.9

庄原市さとやま体験交流協議会は、庄原市ふれあいセンターで、民泊シンポジウムを開催し、市内外から約80人が参加しました。

シンポジウムでは、庄原市が平成28年度から受け入れを行っている民泊による修学旅行をテーマとして、株式会社体験教育企画の藤澤安良さんを講師に基調講演が行われたほか、庄原市に先行して民泊を受け入れている大崎上島町・江田島市・安芸太田町の受け入れ家庭の方をパネリストとして招き、庄原市の受け入れ家庭の方も交えたパネルディスカッションを実施しました。

パネルディスカッションではそれぞれの地域での民泊受け入れについて紹介され、各地域の受け入れ家庭の方が民泊に込めた思いや、訪れた子どもたちとの温かい交流や涙の別れ、民泊を通じて地域で交流の輪が広がったことなど、実際の体験談を交えながら議論が行われました。また、受け入れ家庭の方が特に不安に感じている子どもたちへの食事や滞在中の過ごし方については、受け入れ家庭同士で料理教室を開いてみんなで食事のメニューを出し合うことや、畑がない家庭でも近所の畑を借りて農作業をするなど、受け入れ家庭の負担を少なくして楽しみながら受け入れる工夫などが紹介されました。

シンポジウム終了後は会場を庄原グランドホテルに移して民泊受入家庭交流会が行われ、シンポジウムのパネリストと参加者が交流を深めました。参加者は普段接することのない地域の受け入れ家庭の方と交流しながら、積極的に意見交換や質問をする姿が見られ、庄原市の受け入れ家庭の方にとって、交流を深めると同時に新たな知識や情報を得られる貴重な機会となりました。



▲民泊シンポジウムの様子